

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 4月 9日

事業所名 児童発達支援 こーじーくらぶ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			指導訓練室は77㎡あり、基準以上の広さになっています。
	2	職員の配置数は適切である	5			児童指導員、保育士、精神保健福祉士等配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		視覚による理解	施設内にはトイレのマークや表示により分かりやすくしており、配置している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		換気と消毒の実施	消毒や清掃により清潔で心地よい空間にしている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			午前、午後と事前、事後に申し送りを実施している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			保護者向け評価表による評価と公表を實踐し、意向を把握し、改善に努めています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			ホームページ上で公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		法人の理事による意見等を取り入れ業務改善をしている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			事業所内研修および外部の研修を計画している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		職員と自発音の情報共有	保護者との信頼関係を築き面談等を実施している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		遠城寺式発達検査の使用	未就学児の負担が少ないアセスメントツールの使用を実施している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	2		ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」に即した支援内容を個別支援計画に表記しています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			個別支援計画に沿った支援を心がけています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			日々の内容をスタッフと共同で立案しています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			音楽療法、運動、絵画、ゲームなど、週替わりで設定し、発達状況に合わせて計画しています。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5			個別活動と少人数の集団活動を実施する支援計画を作成している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			開始前には、活動内容や役割分担を確認しています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			振り返りと次回の内容や支援について話し合うようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			活動の記録や気づいた点について話し合うようにしている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		親御さんへの連絡	定期的なモニタリングを実施し、計画書の見直しをしている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2		開催される場合には、児童発達支援管理責任者や管理者、担当者など、適任者が参画します。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			関連機関との連携をしている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5			現在は、医療的ケアが必要な児童の在籍なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5			現在は、医療的ケアが必要な児童の在籍なし。必要場合は連絡体制を整える。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			保育所や幼稚園等との連携を実施している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			保護者の要望により情報提供を行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			専門機関との連携を行っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5			地域の障害のない児童との交流の機会を作っている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	2		現在は協議会や子育て会議等の機会がないが、今後は参加していく予定。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			保護者との信頼関係を築き共通理解を持つよう努力している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	2		送迎時や面談で、対応等について支援しているが、今後はペアレントトレーニングを定期的実施していきたい。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			契約時や請求時に説明している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」について説明し、モニタリング時に支援内容の説明をしている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			子育ての悩みについては、普段から保護者の相談に応じているが、定期的の実施できるような仕組みを構築したい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2		現在は保護者会は実施していないが、今後実施していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			相談の申し入れは迅速に対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			毎月、会報を発行し、活動概要や予定を知らせている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			マニュアルや研修を実施している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			視覚から理解しやすいように表示や絵を掲示している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5			今年度は、地域住民を招待する企画をしており、今後も開かれた事業運営を行っていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			マニュアルや研修を実施し訓練している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			定期的に避難訓練を実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	2		契約時に提示していただいているが、服薬等の変更や予防接種については、報告されていない。今後は徹底していきたい。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			現在は、深刻なアレルギーのある児童は在籍していない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			危険な事例があった場合、報告書を作成し職員で共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			虐待防止マニュアル作成し研修している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			現在は、身体拘束を行う必要のある児童はいないが、必要のある場合には保護者に説明を事前に行い了解を得て、支援計画に記載する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。